様式2（CS・保護者報告用・HP用）

保護者の皆様
コミュニティ・スクール委員の皆様

４三鷹三小第号
令和4年5月19日

校長　山下　裕司
（公印省略）

令和5年度　三鷹中央学園　三鷹市立第三小学校　経営計画

令和5年度の経営計画について、下記のとおりお届けします。

記

学園の経営計画 ※学園内で統一記述	学校の経営計画 ※学校ごとに記述
昨年度明らかになった課題　※昨年度の学園評価から 否定的回答の割合が多かった以下の2項目が課題である。 ①「子どもたちがあいさつをすること」 ②「地域・社会や自分の将来について考える授業が行われていること」	***昨年度明らかになった課題　※昨年度の学校評価から*** 学力論の原理転換を図り、単なる知識・技能を基礎基本とするのではなく、非認知能力にまで拡張し活用できる力、汎用性のある力を基礎基本として、児童の学びを改善する。 ①児童の文脈で学習できる自立した学びの創造 ②培ってきた心のよさをいかした更なる発展的な取組 ③自己の体力をメタ認知し、自ら向上させる具体策の実行
学園で重点的に育む資質・能力　※教育課程届出から 学園の教育目標を踏まえ、以下の4点を重点的に育む資質・能力とする。⑪【確かな学力】相手の考えを生	***学校で重点的に育む資質・能力　※教育課程届出から*** 学園の教育目標を踏まえ、次の4点を重点的に育む資質・能力とする。 ①【確かな学力】個として主体的・協働的に学びに向かう力 ②【豊かな人間性】多様性を認め、共生共存する心 ③【たくましい心と体】自己の体力を知り、向上できる力 ④【地域を愛する心と態度】自己有用感を高め、地域とのつながりを大切にする態度
今年度の改善方策 ①あいさつは日常生活の基本であることから、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、引き続き、学園	***今年度の改善方策*** 自ら考え抜き、協働し、自立的に学ぶ子ども～　アクティブ・ラーナーへ　3年間の挑戦　～ ①児童の文脈で学習を進める全教科・全領域の単元開発 ②ダイバーシティの観点での協働と挨拶・安全をコラボした特色ある取組 ③体力向上全体計画をもとにした体育の授業改善、体力調査新システム、「体力調査ファイル」等の具体策

			今年度の重点目標	学園としての取組	取組項目	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策
人間力・社会力の育成	コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	コミュニティ・スクールの運営	コミュニティ・スクール委員会の協議と支援の充実に努める。	①CS委員会の活性化と地域協働活動の充実を図り、持続可能な運営体制を確立させていく。 ②「三鷹中央学園はぐくみプラン（仮称）」を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。 ③学習ボランティアについて、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、積極的な活用を図っていく。	コミュニティ・スクールの運営	①コミュニティ・スクール委員会を核に、学校と地域の協働を進める。 ②「スクール・コミュニティ」を創造する。	①「三鷹中央学園はぐくむプラン（仮称）」を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。 ②地域等の人財や学校施設を活用し、コミュニティ・スクール委員会と協働することを通して、地域づくりの核となるスクール・コミュニティを目指す。	①「三鷹中央学園はぐくむプラン（仮称）」を掲示、紙上、デジタル等で各所に周知する。 ②防災課やみたかSCサポートネット等の協力を仰ぎ、三鷹中央学園9年間の防災授業を行う。
		小・中一貫教育校としての教育活動	学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実を図り、学園としての一体感を深める。	①「児童・生徒の自立的な学びを目指して」という研究主題を掲げ、学園研究会を推進する。 ②子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。 ③小小交流、小中交流活動の一層の充実を図る。	小・中一貫教育校としての教育活動	①校種を超え、学園教職員としての一体感を生徒や教職員に醸成する。	①「児童・生徒の自立的な学び」を目指した授業改善を行う。 ②学園の交流委員会の主導で、児童と生徒の交流活動を活性化し、学園としての一体感を深める。	①講演を開き知識を増やしたり、研究授業を行い意見交換、指導を得たりするなかで、授業改善に努める。 ②学園の交流委員会の主導で、児童会・生徒会交流、小小交流、小中交流、小学生授業体験、合唱リハーサル鑑賞等を実施する。（コロナ後の交流を確立する。）
	知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実	（知）確かな学力	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。	①「児童・生徒の自立的な学び」を目指して「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 ②ICT機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」の実現を目指す。 ③各校の状況に応じて望ましい読書の習慣が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。	（知）確かな学力	学力論の原理転換を図り、子どもをアクティブ・ラーナーにする学びを確立する。	子どもが自ら問いをもち、知的葛藤しながら必然的な対話を生み出し問題解決していく授業を創造する。そのことにより「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を実現させる。	①子どもの文脈で学習を進めることができる全教科・全領域の単元開発を学年協働で取り組む。 ②各学年できる限り同じ時間に同じ教科ができる時間割にし、学級の枠を超えて学年の子ども一人の状況を把握したり、情報収集のツールの一つとして学校図書館と連携したりして、個別最適な学習環境をつくる。
		（徳）豊かな人間性	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にする心を育む。	①各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実に努めていく。 ②家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組や相談体制を分かりやすく保護者に伝えていく。 ③「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを未然防止するとともに早期発見、早期解決に組織的に取り組む。	（徳）豊かな人間性	各教科の学習で身に付けた力を実生活の場で発揮し、自己のよさを伸ばし、他者のよさを認め、ダイバーシティとインクルーシブの往還を実現する。	多様なコミュニケーションの場や協働の場を意図的に設定し、目的をもって思いやり、感謝の気持ち、協力等の豊かな心を涵養する実践に取り組む。	①学習で身に付けた汎用性のある力を特別活動の場（学校行事、仲良しグループ等）で発揮できるように子どもが目的意識、場意識をもって主体的、協働的に取り組むことで個のよさの受容と共感の心を育む。 ②地域、保護者の方との意図的な交友の場の設定として、全国交通安全週間に「交通安全・あいさつ週間」に取り組む。
		（体）健康・体力	すすんで心と体の健康を大切にする態度を育む。	①発達段階や体力・運動能力の実態に応じて、体育の授業や休み時間、放課後の時間等における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②食育の推進を図り、三鷹産食材を使ったメニュー作りに児童・生徒とともに取り組んでいく。	（体）健康・体力	体育授業の改善、保護者、地域の方との状況や課題の共通理解を図り、地域ぐるみでの体力向上を図る。	三小体力向上全体計画のもと、子どもが自己の体力をメタ認知し、生活習慣、運動習慣において具体的なめあてと取組をもって実践することで3年後確実に体力の向上を図る。	①最大延べ人数294名の学習ボランティアを募り、体育開発単元「三小体つくり運動・運動遊び」と連動した体力調査新システムを運用する。 ②体力調査ファイルを活用し、個々の子どもがめあてをもち取組を実践できるように朝の校庭開放の場の設定など、地域保護者と連携して取り組む。
	特色ある教育活動（その他）		関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。（学校3部制の第2部の充実を図る。）	①関係諸機関との協働により、放課後地域子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動等における学びの時間や内容を充実する。また、児童・生徒が漢字・英語・数学等の各種検定の実施など地域で学べる機会を維持していく。 ②青少対・交通対など地域関係諸団体との連絡を密にして、地域の行事や教室に参加し、児童・生徒の健全育成を図っていく。 ③9年間の系統的な防災授業を実施する。	特色ある教育活動（その他）	本校の強みである地域、保護者の協力と魅力的な校舎施設をフルにいかした「自立した学び舎　三小スタイル」を築く。	個別最適な学びと協働的な学びを往還させる単元開発と個別最適な学習環境づくりに取り組む。	①マイプラン学習（単元内自由進度学習）、学び合い学習（自学自習）、フリースタイル総合（オープンタイム）、ハイブリッド型学習等、先行研究校の実践を全授業の2割程度取り入れた探究的な学びの単元開発を行う。 ②学習ボランティア、地域未来塾、また2部のわ三小いわい広場、防災教室、交通安全教室等、保護者、地域の協力のもと個別最適な学習環境、
喫緊の課題	学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革		教職員の実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	①ICTの効果的な活用とペーパーレス化により、資料作成や会議時間の短縮を図る。 ②定時退庁日やノー部活動ディ等を設定し、メリハリをつけた業務遂行を心がける。 ③学校閉庁日等を設定し、計画的な休暇取得を推進する。 ④保護者や地域にも理解を求める。	学校の働き方改革	改定校務分掌により、時間の有効活用することで、教員一人一人のライフ・ワーク・バランスを確立する。	学校運営の基盤となるマネージメントに特化したインフラパートと教育目標の実現の実行部隊としての3部会と分掌をシンプルにし、個々の教員の仕事分担の専任性と大幅な会議精選を実現する。	①水曜日を4時間授業とし、午後は全て研究、研修の時間とすることで、組織目標に専念できる時間を確保する。 ②新しい校務分掌の運営の中で確実なスクラップ・アンド・ビルドを行う。